

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第47回 全日本実業団バスケットボール大会	期間 2015年1月24日(土)～1月27日(火)
開催地 北海道	会場 北海きたえーる
参加者 下 清孝	所属地区名 北見地区
講師 丹後 正昭 氏(JBA 審判委員会評価グループ長) 針生 敦男 氏(日本実業団連盟審判委員長 東京 AA) 黒岡 和哲 氏(日本実業団連盟副審判委員長 大阪 AA) 北沢 岳夫 氏(日本実業団連盟副審判委員長 岩手 国際) 各都道府県実業団連盟ブロック長	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など 審判講習会開講式にて針生委員長より、各ブロックより代表されてこの大会の講習生として参加されていると思います。 一年間積み上げて来た事、今自分の持っているものを全てコートに出せるよう頑張ってくださいとお言葉を頂きました。また、我々公認審判員は3日目の割り当てを勝ち取ることを目標に2日間頑張ってくださいとお話して頂きました。	
実技研修、座学研修等の記録 講師 丹後 正昭氏 テーマ 平成26年度『指導重点項目を理解し、徹底しよう』 1. 公平性を伴う判定の一貫性 2. 規則、マニュアルの正しい理解と適応 3. 相手審判やT.Oとの連携意識の向上 4. ゲームのスムーズな進行・重要な時間帯への対応 5. 技術の理解とゲーム運営 6. 審判員としてのコンディショニングの自己管理意識の向上 7. 個々のプレイの見極め 8. ショット・クロックの見極め 9. 服装や身なりを含むプレゼンテーション 上記、9項目について約1時間レクチャーして頂きました。 中でも、上記項目にはごさいませんが審判として、メンタルコントロールの重要性を特に強調されてお話しして頂きました。	
実践実技1	
2015年1月24日(土)	対戦カード 男子 予選リーグ プレス工業(関東8) VS 浪速酸素(近畿4)
主審 下 清孝	相手審判 愛媛県 坂田 一也氏 (四国ブロック 講習生)
ゲーム前のカンファレンス内容 ・トレール、リードの役割の確認 ・リバウンドに対するトレールの協力 ・エリア5を二人で判定すること ・二人でゲーム運営をしていくこと	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 講師 丹後 正昭氏(JBA講師) 大阪 黒岡 和哲氏(AA)	
丹後氏 主審としてはもっともっと細かいところ(チームのベンチ管理等)配慮をしてほしい。個人的には判定基準の一貫性を貫いてほしい。個人的にはリード・ポジションの時にもっとプレイの始まりを抑え最終的なスペースを捉えるポジションにいるとより正確な判定ができる。	
黒岡氏 丹後先生の事と付け加えるとリバウンド時にトレールが高い時が多いので、もっと積極的に相手レフリーを助けに行った方が良いのではないかと。 二人で運営する気持ちは伝わったが、もっと主審として自分が出なくてはならない時がある。	

ゲーム感想
 ゲーム自体は点差のついてしまったゲームでした。
 ファールの判定をする中で、体の寄せ方は整理しきれなかったのではないかと思います。
 特に、ドライブに関してはDFが体を寄せたのか、OFがスペースのないところに行ったのか、プレーの始まりを捉えきれなく判定しきれないことが多々ありました。

実践実技2

2015年1月25日(日) 対戦カード 男子 予選リーグ ホシザキ(東海3) VS 三井住友銀行(関東3)

副審 下 清孝	相手審判 東京都 本間 充氏 (関東 A)
---------	-----------------------

ゲーム前のカンファレンス内容

- ・エリア3のトレール、リードの引き継ぎ
- ・ボクシング・インを徹底し、二人がわからないことは無いようにする

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 東京 針生 敦男氏 (本部 AA)

- ・トレイル時に高い事が多い。特にエリア3、4にプレイヤーが固まっているときにペネトレイトして相手を助ける意識をもっと欲しい。
- ・判定は違和感のあるものはないので、より説得性のあるポジションを
- ・リード時に中に入りすぎてブラインドになっていることがあるのもっとDFの意図を感じて1歩、2歩開く、下がる等スペースを捉える工夫を

ゲーム後の感想

講評に頂きましたが、トレイル時にエリア3、4にプレイヤーが固まっているときにもっと相手レフリーに協力できるポジションを考えるべきでした。
 リード時には、足が止まってしまいブラインドになってしまい、相手レフリーの方に助けて頂く事が多々ありました。

実践実技3

2015年1月26日(月) 対戦カード 女子 予選リーグ 三井住友銀行(関東1) VS メディセオ(関東3)

副審 下 清孝	相手審判 埼玉県 高橋 滝衛氏 (関東)
---------	----------------------

ゲーム前のカンファレンス内容

- ・エリア3の見方の確認 基本トレールレフリー
- ・リードが右に来た時のトレールの協力
- ・ボクシング・インを意識して、2人でゲーム運営を行う
- ・アイ・コンタクト等で常にコミュニケーションを取る

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 北海道 山崎 真吾氏 (北海道ブロック長 A)

- ・全体的に見ると2人でよくゲームを運営していたと思う
- ・女子ゲームという事で、もっと細かく動き確認して行った方が良い

ゲーム後の感想

関東同士のゲームでした。相手レフリーは関東の方でしたのでカンファレンス時に両チームの特徴をレクチャーして頂いたおかげでゲーム開始の早い段階で両チームの特徴を把握できたのではないかと思います。
 ゲームの早い段階ではお互い視野の分担を意識できていたと思うのですが、ゲームクロックが進むにつれて、お互いに同じところを見ていると感じタイム・アウト時にコミュニケーションを取り、修正を行えたことは収穫かと思えます。

まとめ

地元北海道札幌市での全国大会という舞台に講習生として参加させて頂きました。

我々、日本公認にとっては3日目の割当を勝ち取ることを目標とする大会で、3日目の割当を頂く事ができました。

これも地元北見地区、並びに北海道での諸先輩方のご指導のおかげと思っております。

ありがとうございます。

また、現役NBL担当レフリー、WJBL担当レフリーの方々のレフリーも見る事やお話を聞く事ができ、大会期間中は大変勉強させて頂く事が出来ました。

今後はまた、地元地区での活動が主となりますがこの経験を糧にまた1つ1つ積み上げて行き、地区並びに道大会等

で還元して行ければと思います。

最後になりますが、今回このような機会を与えて下さった北海道協会、北海道実業団連盟、北見地区協会の関係者の皆様にこの場をお借りしお礼申し上げます。ありがとうございました。